

令和6年

# 火災と救急・救助の概要



三木市消防本部

# 目 次

## [火災概要]

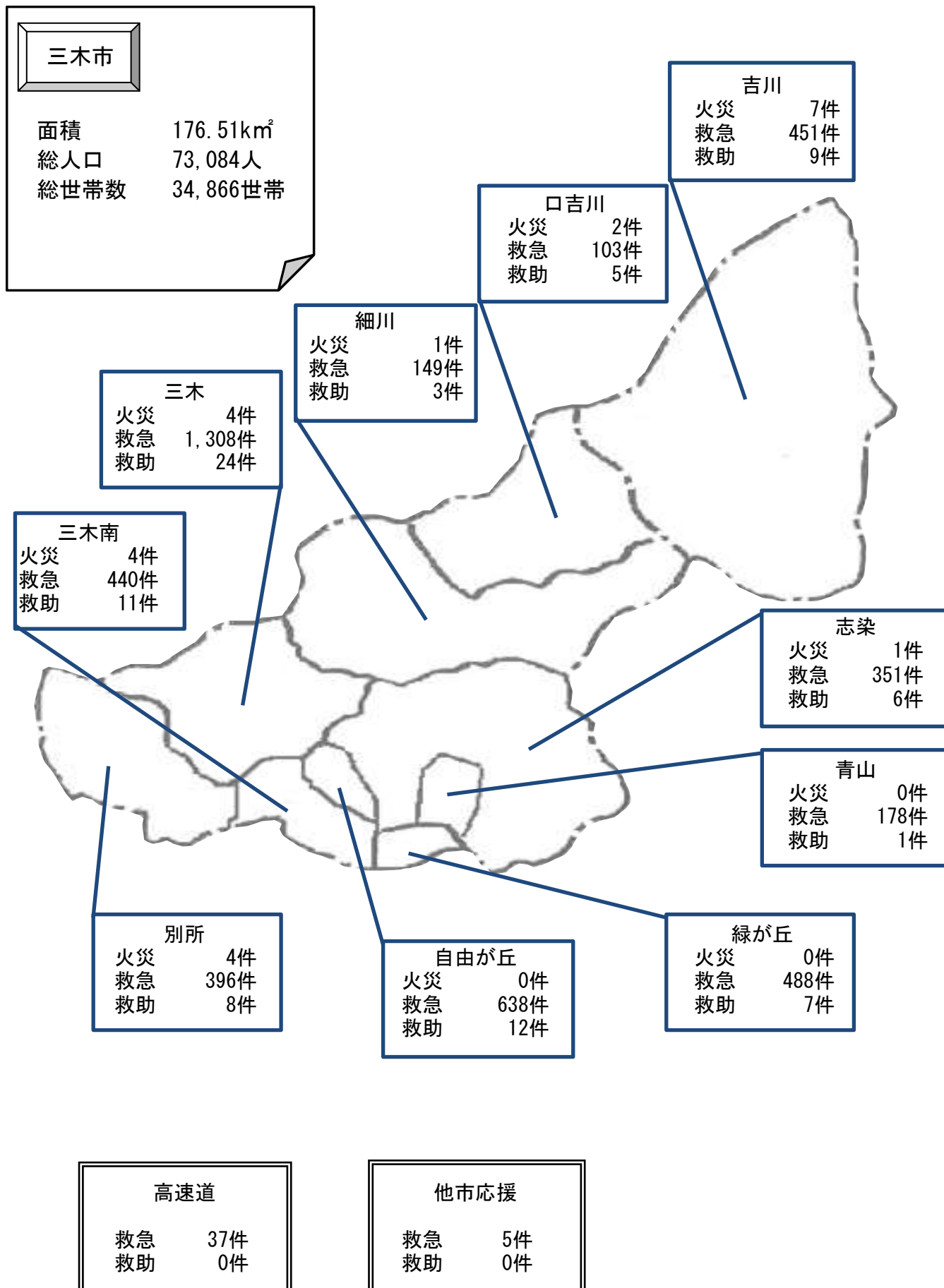
地区別発生件数	… 1	火災による損害額(5年間)	… 8
令和6年中の火災概要	… 2~3	管内出火件数・	
火災概要(対前年比)	… 4	損害額の推移(5年間)	… 8
地区別出火件数	… 5	出火原因別件数	… 9
月別火災種別出火件数	… 5	初期消火の状況	… 9
四季別出火件数	… 6	火災による死者数(10年間)	… 10
月別出火件数(5年間)	… 6	主な火災発生状況	… 10
曜日別出火件数	… 6	高速道路における火災発生状況	… 11
時間別出火件数	… 7	消防部隊出動状況(対前年比)	… 11
署別出火件数	… 7		

## [救急・救助概要]

令和6年中の救急・救助概要	… 12~14	事故種別救急搬送人員	… 19
救急出場件数	… 15	傷病程度別救急搬送人員	… 19
発生地区別出場件数	… 15	発生場所別救急出場件数	… 20
署別救急出場件数	… 15	事故種別年齢別搬送人員	… 20
救急出場件数の推移	… 16	性別科目別搬送人員	… 20
事故種別救急出場件数	… 16	高速道路における救急活動状況	… 21
月別救急出場件数	… 17	応急処置件数	… 21
曜日別救急出場件数	… 17	救助出動状況	… 22
時間別救急出場件数	… 18	地区別救助出動件数	… 22
現場到着所要時間別救急出場件数	… 18	発生場所別救助出動件数	… 22
病院収容所要時間別搬送人員	… 19		

# 地区別発生件数

〔人口・世帯数については  
令和6年12月末現在〕



# 令和6年中の火災概要

## 1. 概況

令和6年中の出火件数は23件で、損害額は88,282千円、建物焼損床面積1,073㎡、林野焼損面積9a、り災世帯11世帯、り災人員26人となっています。

## 2. 出火件数

### (1) 出火件数

出火件数は23件（前年比15件減）で、15.9日に1件の割合で発生しています。

出火率（人口1万人当りの出火件数）は3.15ポイント（前年比1.98ポイント減）となっています。

### (2) 火災種別毎の出火件数

建物火災13件（57%、前年比増減なし）が最も多く、次いでその他火災7件（30%、前年比10件減）、車両火災2件（9%、前年比5件減）、林野火災1件（4%、前年比増減なし）となっています。

建物火災の内訳は、住宅7件、工場3件、その他建物3件となっています。

### (3) 死者・負傷者

令和6年中の火災による死者はなく（前年比増減なし）、負傷者は3人（前年比3人減）となっています。

### (4) 焼損棟数

焼損棟数は19棟（前年比1棟減）で、全焼棟数は7棟（前年比3棟増）となっています。

### (5) り災世帯・り災人員

り災世帯は11世帯（前年比3世帯増）で、り災人員は26人（前年比8人増）となっています。

### (6) 焼損面積

建物焼損床面積は1,073㎡（前年比748㎡増）で、林野焼損面積は9a（前年比12a減）となっています。

### (7) 出火原因

出火原因は、「たき火」が6件、「ストーブ」「溶接機・切断機」が各2件、「焼却炉」「電気機器」「電灯・電話等の配線」「衝突の火花」が各1件、「その他」が4件、「不明（調査中を含む）」が5件となっています。

### (8) 損害額

火災による損害額は88,282千円（前年比66,460千円増）となっています。  
※損害額については、調査中1件を除く。

## 3. まとめ

令和6年中の出火件数は23件、損害額は88,282千円、火災による死者は0人、負傷者は3人です。

火災を防ぐためには、一人ひとりが防火に対する意識を持ち、少しでも知識を身につけていただくことが大切です。

近年、たき火からの火災が多く発生しています。たき火が火災に発展する原因は、風にあおられて拡大するものや、その場を離れたことが主なものです。たき火など火を扱う行為を安易に考えず慎重に実施していただくことが大切です。

住宅防火対策として、住宅用火災警報器が設置されていたことで、火災を早期に発見でき大事に至らなかった奏功事例もあることから、住宅用火災警報器の設置及び維持管理について啓発してまいります。

## 火災概要（対前年比）

出火件数は前年と比べ15件減少。火災種別ではその他火災が10件、車両火災が5件減少しています。

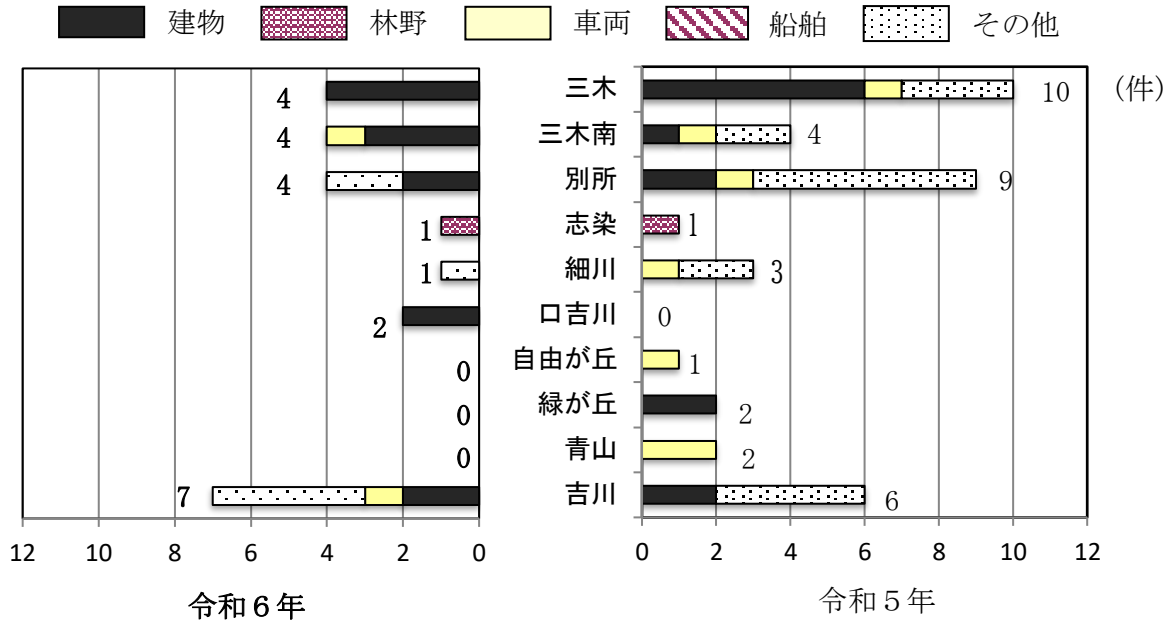
区 分	単 位	令和6年	令和5年	増 減
出 火 件 数	件	23	38	△ 15
建 物	〃	13	13	0
内	住 宅	7	4	3
内	工 場	3	2	1
内	その他	3	7	△ 4
林 野	〃	1	1	0
車 両	〃	2	7	△ 5
船 舶	〃	0	0	0
そ の 他	〃	7	17	△ 10
損 害 額	千円	88,282	21,822	66,460
建 物	〃	87,811	1,106	86,705
内	建 物	47,563	399	47,164
内	収 容 物	40,248	707	39,541
林 野	〃	0	0	0
車 両	〃	463	12,968	△ 12,505
船 舶	〃	0	0	0
そ の 他	〃	8	7,748	△ 7,740
爆 発	〃	0	0	0
建 物 焼 損 棟 数	棟	19	20	△ 1
全 焼	〃	7	4	3
半 焼	〃	0	0	0
部 分 焼	〃	5	7	△ 2
ぼ や	〃	7	9	△ 2
爆 損	棟	0	0	0
車 両 等 数	台	0	0	0
焼 損	m <sup>2</sup>	1,073	325	748
建 物 床 面 積	m <sup>2</sup>	131	73	58
林 野	a	9	21	△ 12
車 両	台	2	7	△ 5
船 舶	艇	0	0	0
負 傷 者	人	3	6	△ 3
死 者	〃	0	0	0
り 災 世 帯	世帯	11	8	3
全 損	〃	2	0	2
半 損	〃	0	0	0
小 損	〃	9	8	1
り 災 人 員	人	26	18	8
建 物 1 件 当 り の 損 害 額	千円	6,755	85	6,670
〃 焼 損 床 面 積	m <sup>2</sup>	83	25	58

※損害額については、調査中の1件を除く。

△ 印は減少

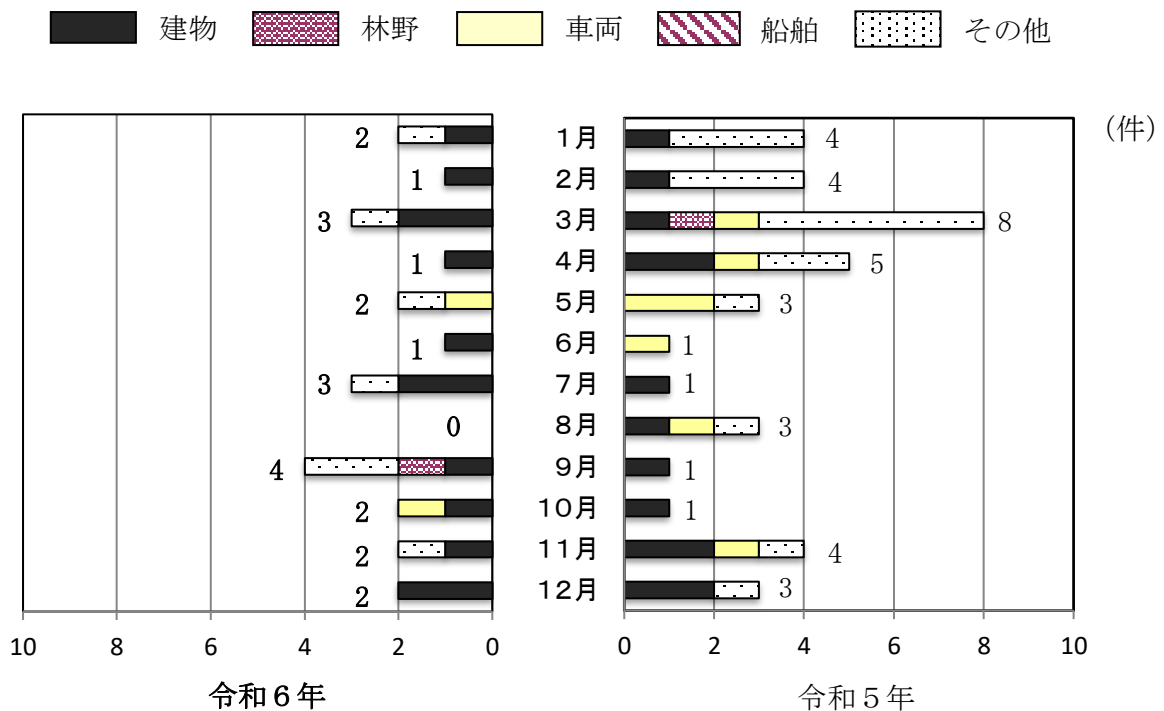
## 地区別出火件数

前年と比較すると、口吉川地区、吉川地区が増加、三木地区、別所地区、細川地区、自由が丘地区、緑が丘地区、青山地区が減少しています。



## 月別火災種別出火件数

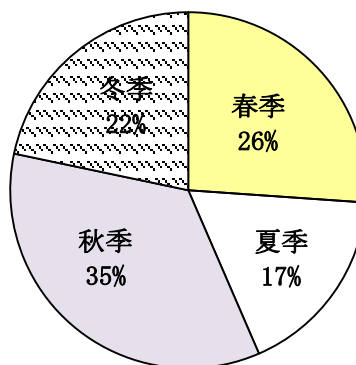
前年と比較すると、7月・9月・10月が増加し、1月・2月・3月・4月・5月・8月・11月・12月が減少、6月は増減がありませんでした。



## 四季別出火件数

春季(3・4・5月)	6 件
夏季(6・7・8月)	4 件
秋季(9・10・11月)	8 件
冬季(12・1・2月)	5 件
計	23 件

出火件数比率

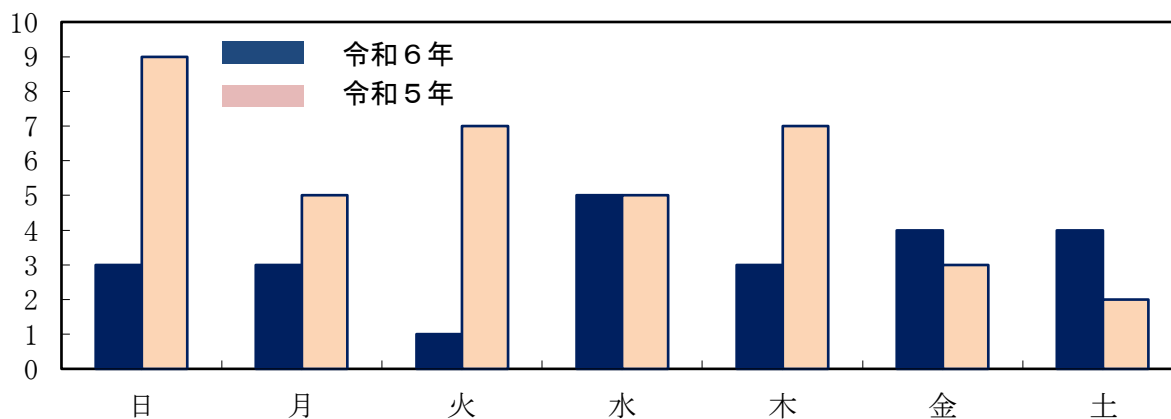


## 月別出火件数 (5年間)

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
令和6年	2	1	3	1	2	1	3	0	4	2	2	2	23
令和5年	4	4	8	5	3	1	1	3	1	1	5	2	38
令和4年	8	6	2	10	4	5	0	6	0	1	1	4	47
令和3年	4	3	4	1	3	0	1	0	3	5	1	1	26
令和2年	4	1	2	3	5	5	0	1	2	1	1	5	30

## 曜日別出火件数

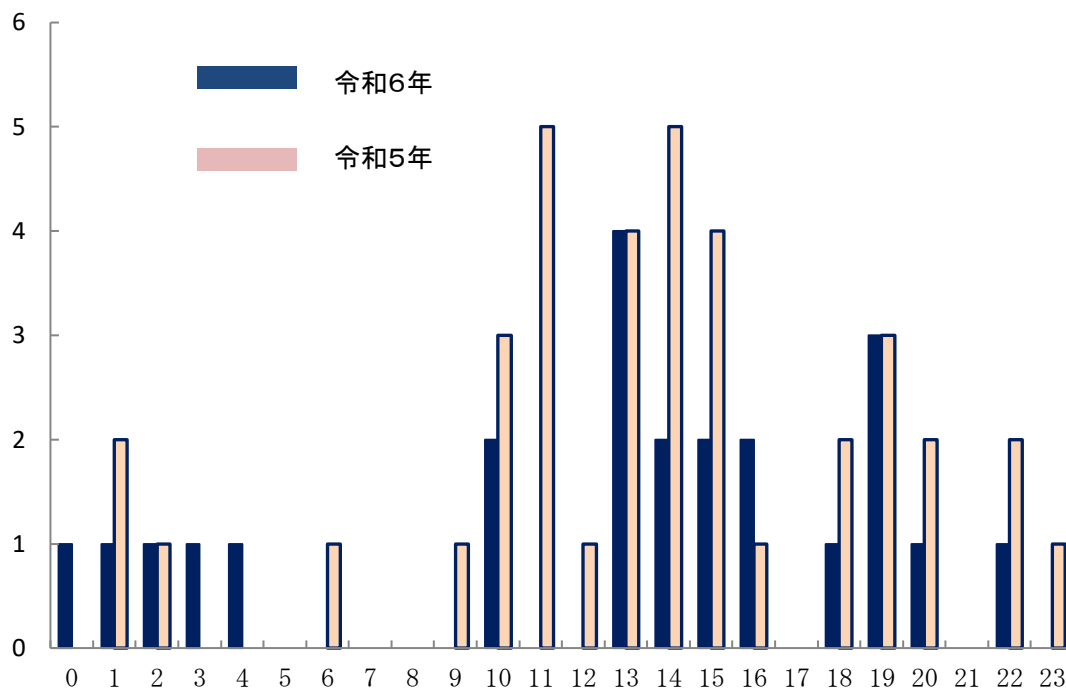
水曜日(5件)、金曜日・土曜日(4件)に多く発生しています。



年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和6年	3	3	1	5	3	4	4	23
令和5年	9	5	7	5	7	3	2	38



## 時間別出火件数



年 \ 時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
令和6年	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	4	2	2	2	0	1	3	1	0	1	0	23
令和5年	0	2	1	0	0	0	1	0	0	1	3	5	1	4	5	4	1	0	2	3	2	0	2	1	38

## 署別出火件数

本署は火災件数が12件、広野分署は6件減少し、吉川分署は3件増加となっています。

種別 \ 年	建物		林野		車両		船舶		その他		合計	
	令和6年	令和5年	令和6年	令和5年	令和6年	令和5年	令和6年	令和5年	令和6年	令和5年	令和6年	令和5年
本署	6	8	1	1	1	3	0	0	3	11	11	23
広野分署	3	3	0	0	0	4	0	0	0	2	3	9
吉川分署	4	2	0	0	1	0	0	0	4	4	9	6
合計	13	13	1	1	2	7	0	0	7	17	23	38

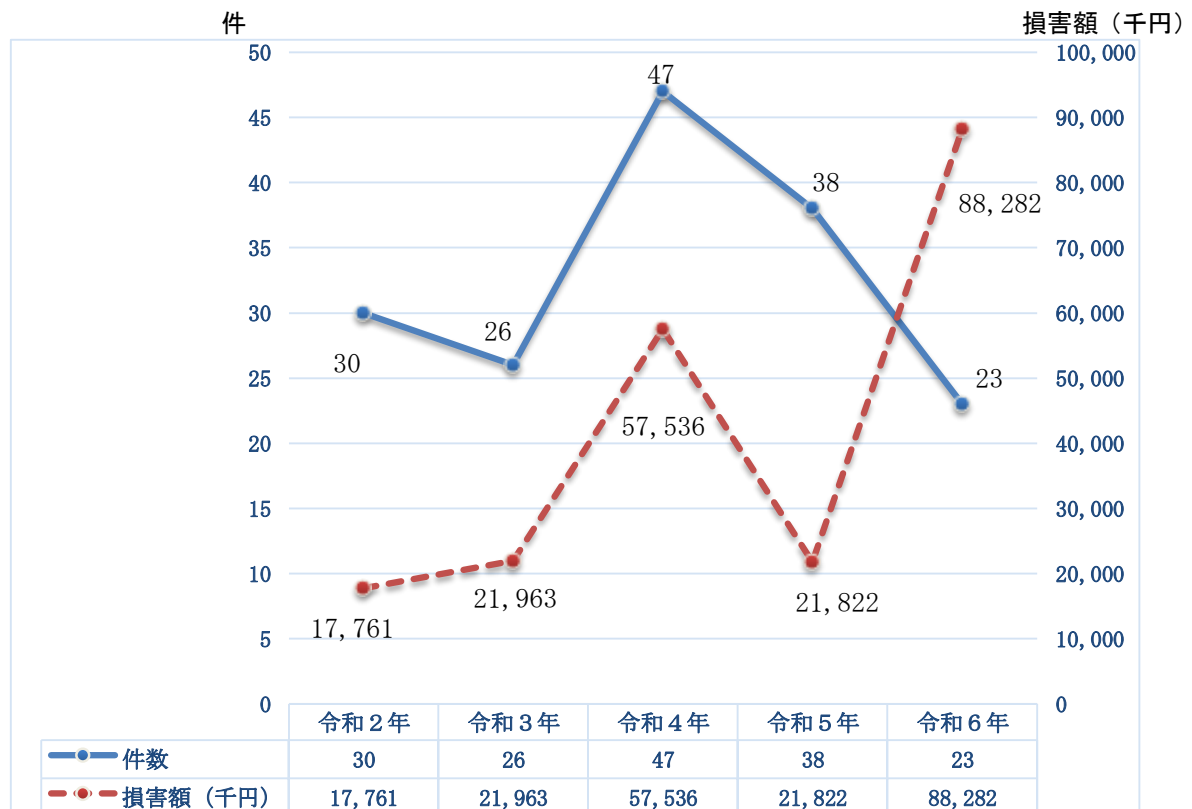
## 火災による損害額（5年間）

（損害額単位：千円）

項目		年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年
火災損害額			88,282	21,822	57,536	21,963	17,761
内訳	建物		87,811	1,106	44,603	21,405	16,818
	林野		0	0	0	0	0
	車両		463	12,968	10,873	10	915
	船舶		0	0	75	0	0
	その他		8	7,748	1,985	548	28
1件当り損害額			3,838	574	1,224	845	592
出火件数			23	38	47	26	30
内訳	建物		13	13	23	15	10
	林野		1	1	8	3	7
	車両		2	7	6	1	4
	船舶		0	0	0	0	0
	その他		7	17	10	7	9

※損害額については、調査中1件を除く。

## 管内出火件数・損害額の推移（5年間）



## 出火原因別件数

出火原因は「たき火」の6件が多く、全体の約26%を占めています。

出火原因	令和6年	令和5年
たばこ		3
こんろ		
風呂かまど		
炉		
焼却炉	1	
ストーブ	2	1
こたつ		
ボイラー		
煙突・煙道		
排気管		
電気機器	1	2
電気装置		1
電灯・電話等の配線	1	4
内燃機関		
配線器具		
火あそび		
マッチ・ライター		
たき火 ※1	6	8
溶接機・溶断機	2	1
衝突の火花	1	1
灯火		
取灰		
火入れ		
放火		1
放火の疑い		
その他 ※2	4	12
不明（調査中含む）	5	4
合計	23	38

※1

たき火欄内訳	令和6年	令和5年
たき火	4	3
虫焼火	2	5
合計	6	8

※2

その他欄内訳	令和6年	令和5年
その他の裸火（器に入っていないもの）	0	1
バーナ	0	1
火のついた紙	0	1
粉碎枠の火花	0	1
金属との衝撃火花	0	1
炭火	0	1
ブレーキライニング	0	2
ガスフライヤー	0	1
金属粉	0	2
その他移動可能な電熱器	0	1
プロペラシャフト	1	0
赤熱した切粉	1	0
その他の静電スパーク	1	0
線香	1	0
合計	4	12

## 初期消火の状況

令和6年は23件の火災が発生し、そのうち17件（74%）で何らかの初期消火を行っています。

項目	令和6年		令和5年	
	実施	有効	実施	有効
消火器以外の消防用設備				
水バケツ	2	1	6	1
消火器	6	3	8	3
水道・浴槽・汲み置きの水	7	3	3	1
寝具・衣類等をかけた			2	
もみ消した			2	
その他	2		2	2
合計	17	7	23	7
初期消火なし	6		15	

## 火災による死者数(10年間)

地区\年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年
三木			3		1		1	1	1	1
三木南										
別所								1		
志染										
細川				1	1			1		
口吉川										
緑が丘										
自由が丘			1							
青山										
吉川				1						
合計	0	0	4	2	2	0	1	3	1	1
兵庫県	—	49	65	56	53	53	72	57	54	62
全国	—	1,503	1,452	1,417	1,321	1,486	1,422	1,456	1,452	1,678

※令和6年の全国・兵庫県の統計について、現時点では発表されていません。

## 主な火災発生状況

発生月日	火災種別	覚知時間	鎮火時間	発生場所	火災状況
1/10	建物	10:58	13:29	岩宮	一般住宅1棟全焼、類焼の3棟部分焼
4/8	建物	4:59	6:15	鳥町	一般住宅2棟全焼
7/25	建物	22:31	翌1:07	口吉川町大島	倉庫114㎡全焼

## 高速道路における火災発生状況

高速道路における火災は1件となっています。

発生月日	火災種別	覚知時間	鎮火時間	発生場所	火災状況
5/15	車両	14:23	15:06	中国自動車道上り44.5K P	13トントラックで走行中に可燃物が車軸に絡まり出火し、一部を焼損した。

## 消防部隊出動状況（対前年比）

部隊出動件数は、昨年より23件減少の275件となっています。

種別	年	本署		広野分署		吉川分署		合計		増減
		令和6年	令和5年	令和6年	令和5年	令和6年	令和5年	令和6年	令和5年	
警戒		114	135	58	71	100	88	272	294	△ 22
応援		0	2	0	0	0	1	0	3	△ 3
風水害		1	0	0	1	2	0	3	1	2
合計		115	137	58	72	102	89	275	298	△ 23

△印は減少

※「警戒」 偵察・煙火・自火報・誤報・救急支援・油処理・ガス漏洩・その他

「応援」 近隣応援(境界、管轄高速道への出動)

# 令和6年中の救急・救助概要

## 1. 概況

令和6年中の救急出場件数は4,544件（前年比124件、2.8%増）で、搬送人員は4,133人（前年比127人、3.2%増）と、いずれも昨年より増加し過去最高件数となりました。

1日の平均出場件数は12.4件（前年比0.3件増）で、市民約16人に1人が救急車を利用したことになります。

令和6年中の救助出動件数は86件（前年比18件増）となっています。

## 2. 救急出場件数

### (1) 救急出場件数

出場件数は4,544件で、昨年より124件増加となりました。

### (2) 発生地区別出場件数

三木地区の1,308件（28.8%）が最も多く、続いて自由が丘地区638件（14.0%）、緑が丘地区488件（10.7%）、吉川地区451件（9.9%）の順となっています。

### (3) 事故種別出場件数

事故種別では急病2,886件（63.5%）が最も多く、続いて一般負傷845件（18.6%）、転院搬送381件（8.4%）、交通事故245件（5.4%）の順となっています。

### (4) 月別・曜日別・時間別状況

月別では7月の443件が最も多く、続いて8月の423件、12月の416件の順となっています。最も少ないのは3月の339件です。

曜日別では月曜日の708件が最も多く、続いて日曜日の670件、土曜日の667件です。最も少ないのは木曜日の599件です。

時間別では10時台の341件が最も多く、続いて11時台の326件、12時台の299件です。最も少ないのは4時台の65件です。

### (5) 現場到着所要時間（覚知～現場到着）

平均所要時間は8.6分（前年8.3分）、5分以上10分未満のものが2,909件（64.0%）と最も多く、続いて10分以上20分未満が1,193件（26.3%）となっています。

### (6) 病院収容所要時間（覚知～病院収容）

平均所要時間は44.5分（前年44.0分）、30分以上60分未満のものが2,836件（68.6%）と最も多く、続いて20分以上30分未満が639件（15.5%）となっています。

## 3. 救急搬送人員

### (1) 傷病程度別搬送人員

軽症2,185人（52.9%）、中等症1,763人（42.7%）、重症142人（3.4%）、死亡43人（1.0%）の順となっています。

## (2) 事故種別年齢別搬送人員

急病の2,611人(63.2%)が最も多く、続いて一般負傷767人(18.6%)の順となっています。

また、年齢別では65歳以上の高齢者が2,840人(68.7%)を占めています。

## (3) 性別科目別搬送人員

男性2,202人(53.3%)、女性1,931人(46.7%)で、271人男性を多く搬送しています。

内科2,277人(55.1%)が最も多く、続いて整形外科697人(16.9%)、脳神経外科689人(16.7%)の順となっています。

## 4. 応急処置件数

搬送人員4,133人に対して、応急処置を実施しており、応急処置件数は、延べ17,284件となっています。

血中酸素飽和度測定と血圧測定が多く、救急救命士による傷病者の蘇生等のために行う特定行為は182件(前年比10件増)となっています。

## 5. 救助件数

### (1) 救助出動状況

出動件数は86件(前年比18件増)で、救助人員38人(前年比4人増)となっています。事故種別では、建物等による事故が48件(55.8%)と最も多く、続いて交通事故23件(26.7%)となっています。

### (2) 地区別救助出動件数

三木地区が24件と最も多く、続いて自由が丘地区12件、三木南地区が11件となっています。

### (3) 発生場所別救助出動件数

住居での事故等が51件(59.3%)で、道路での事故が20件(23.3%)となっています。

## 6. 救急業務の高度化

高度救急資器材の整備に努めるとともに、気管挿管、薬剤(アドレナリン)投与、心肺機能停止前の輸液、低血糖発作傷病者へのブドウ糖投与が行える認定救命士の養成を行っています。

消防機関の担う救急業務の更なる高度化を実現するため、指導救命士の養成を行い、救急救命士の教育体制の構築を行っています。また、医師による指導、助言、後検証、再教育等、メディカルコントロール体制の充実を図っています。

## 7. まとめ

救急出場件数は4,544件で、前年の出場件数より124件増加しました。

全搬送人員に占める高齢者の比率は68.7%（前年66.0%）となっています。

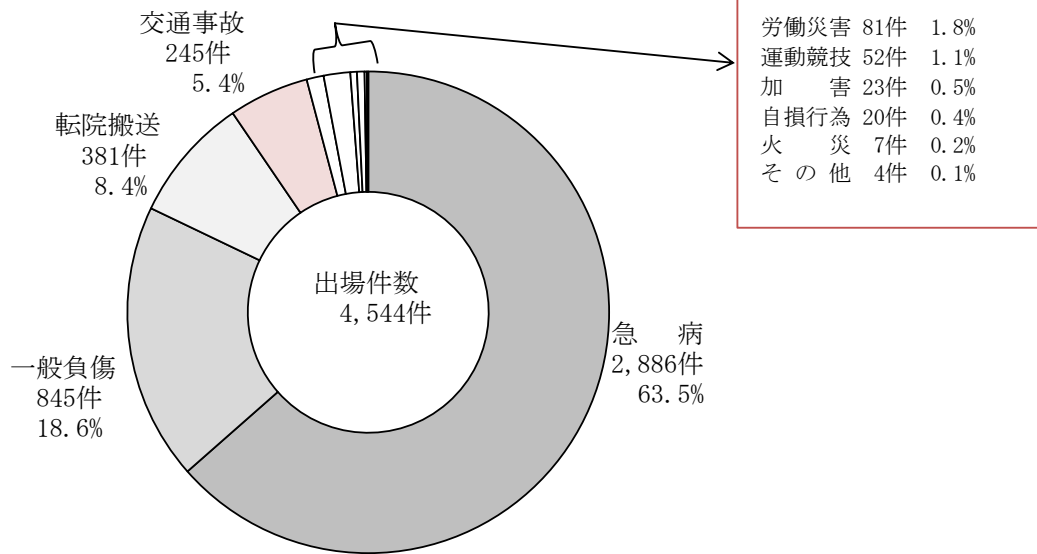
救命率の向上には、その場に居合わせた人による適切な心肺蘇生法と早期除細動（AED）が必要不可欠であることから、応急手当普及員の育成に努めるとともに、救急法講習会、普通救命講習、上級救命講習を継続的に開催していきます。また、広報等を通じて救急車の適正利用など救急業務への正しい理解と協力を求めてまいります。

救助出動件数については、建物等による事故が近年増加傾向にあり、過去5年間の救助出動件数398件のうち208件と全体の52.3%を占めています。主に一人暮らしの高齢者に対する安否確認による出動となっています。



## 救急出場件数

救急出場件数 4,544 件のうち急病が 60% 以上を占め、続いて一般負傷の順となっています



## 発生地区別出場件数

三木地区が最も多く、続いて自由が丘地区となっています。

地区	令和 6 年	令和 5 年	令和 4 年
出 場 件 数	4,544	4,420	4,460
三 木	1,308	1,286	1,345
三 木 南	440	401	423
別 所	396	397	370
志 染	351	302	300
細 川	149	160	149
口 吉 川	103	100	84
緑 が 丘	488	459	474
自由が丘	638	608	660
青 山	178	225	186
吉 川	451	436	430
高 速 道	37	39	33
そ の 他	5	7	6

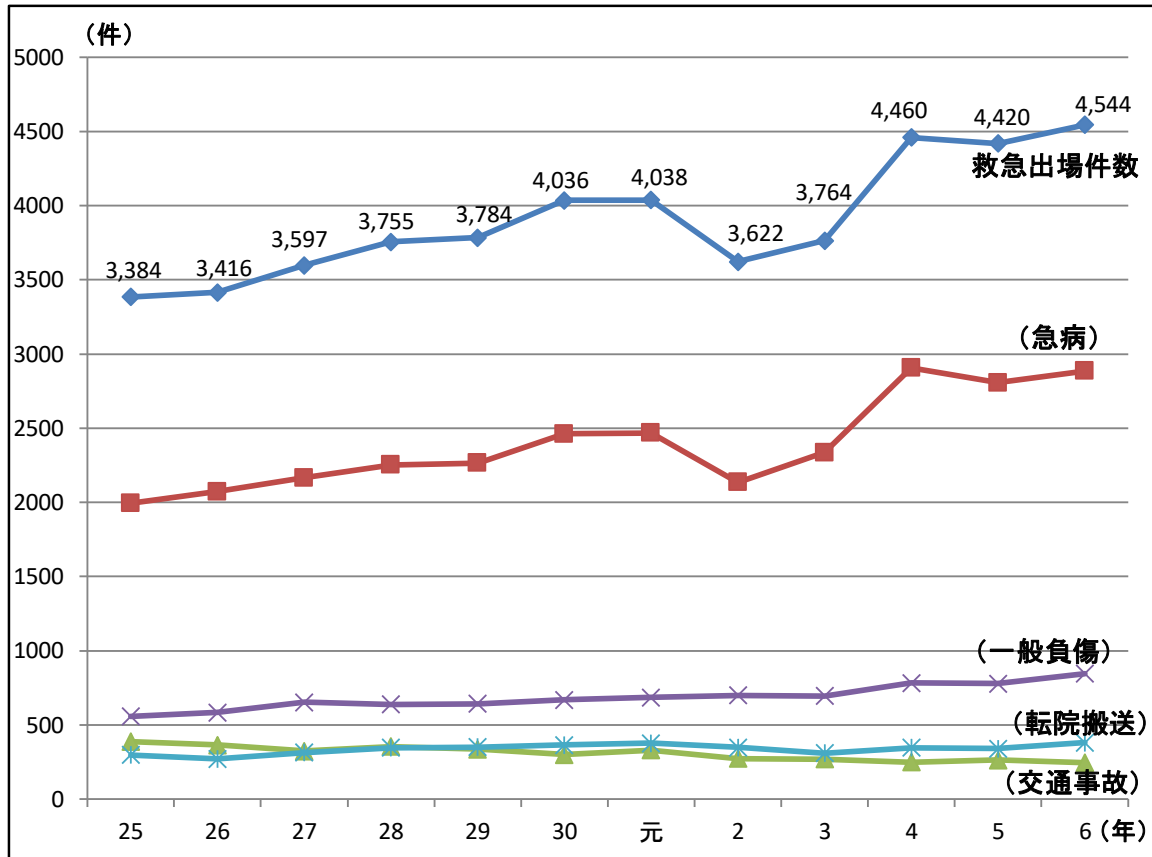
## 署別救急出場件数

出場割合は、本署 53.6%、広野分署 34.1%、吉川分署 12.3% となっています。

事故種別	本 署	広 野	吉 川
火 災	5	1	1
自 然 災 害	0	0	0
水 難	0	0	0
交 通 事 故	145	61	39
労 働 災 害	45	14	22
運 動 競 技	29	17	6
一 般 負 傷	431	306	108
加 害	12	9	2
自 損 行 為	15	4	1
急 病	1,529	1,012	345
そ の 他	224	127	34
合 計	2,435	1,551	558

## 救急出場件数の推移

救急出場件数は4,544件で、前年比124件増加となっています。



## 事故種別救急出場件数

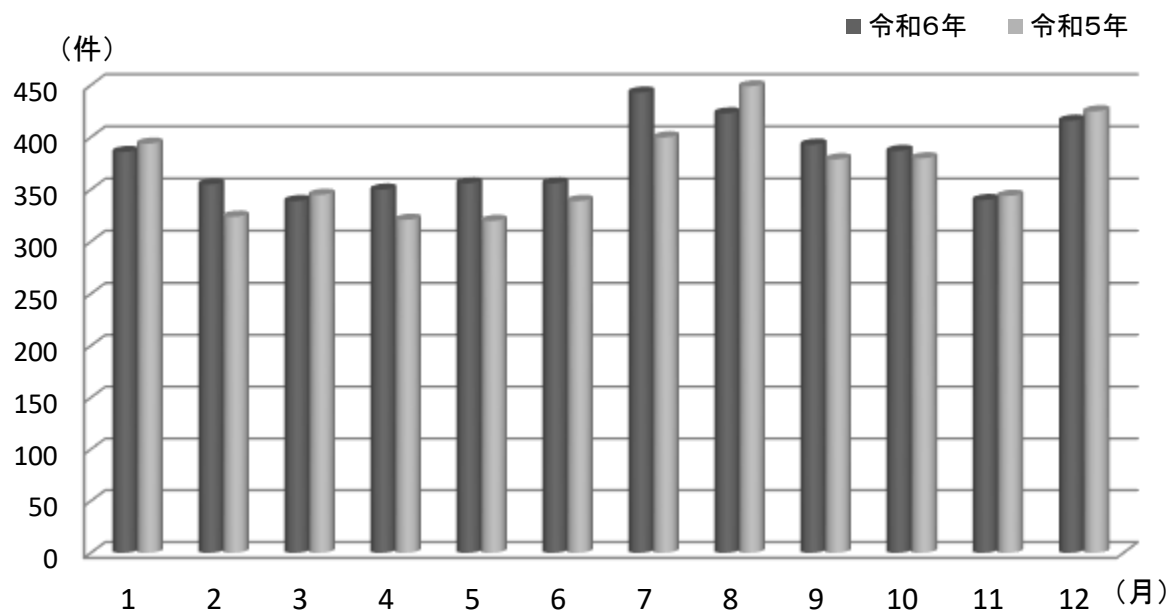
急病が昨年より79件、一般負傷が66件それぞれ増加しています。

事故種別		年	令和6年	令和5年	増減
火災			7	8	△1
自然災害			0	0	0
水難			0	0	0
交通事故			245	262	△17
労働災害			81	85	△4
運動競技			52	76	△24
一般負傷			845	779	66
加害			23	15	8
自損行為			20	37	△17
急病			2,886	2,807	79
その他	転院搬送		381	340	41
	医師搬送		0	0	0
	資器材搬送		0	0	0
	その他		4	11	△7
合計			4,544	4,420	124

△印は減少

## 月別救急出場件数

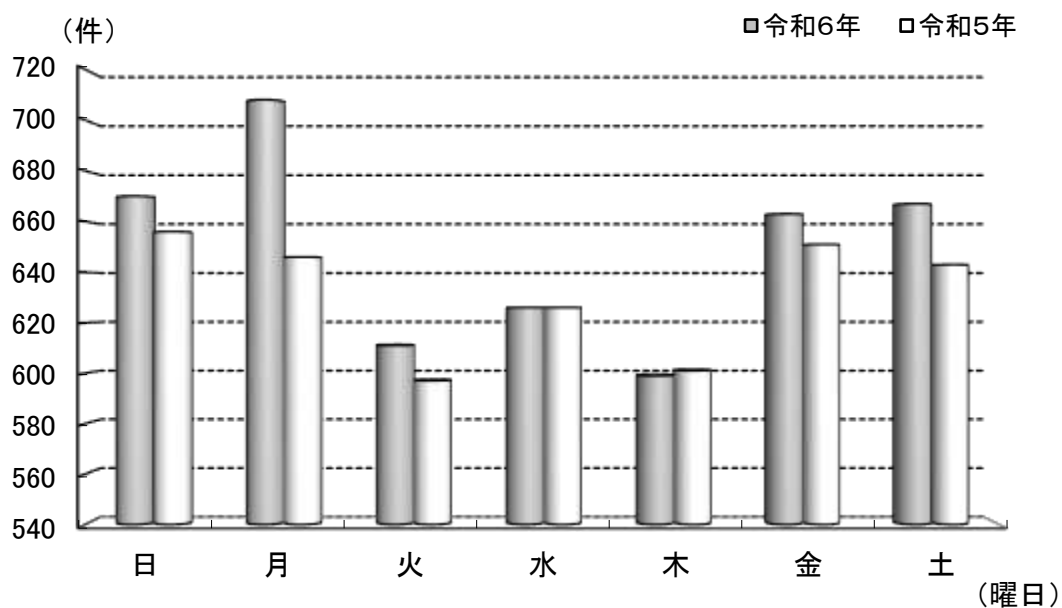
7月が最も多く、続いて8月となっています。最も少ないのは3月です。  
1ヶ月平均378.7件、1日平均12.4件出場しています。



年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和6年	386	355	339	350	356	356	443	423	393	387	340	416	4,544
令和5年	394	324	345	321	320	339	400	449	379	380	344	425	4,420

## 曜日別救急出場件数

月曜日が最も多く、続いて日曜日となっています。最も少ないのは木曜日です。

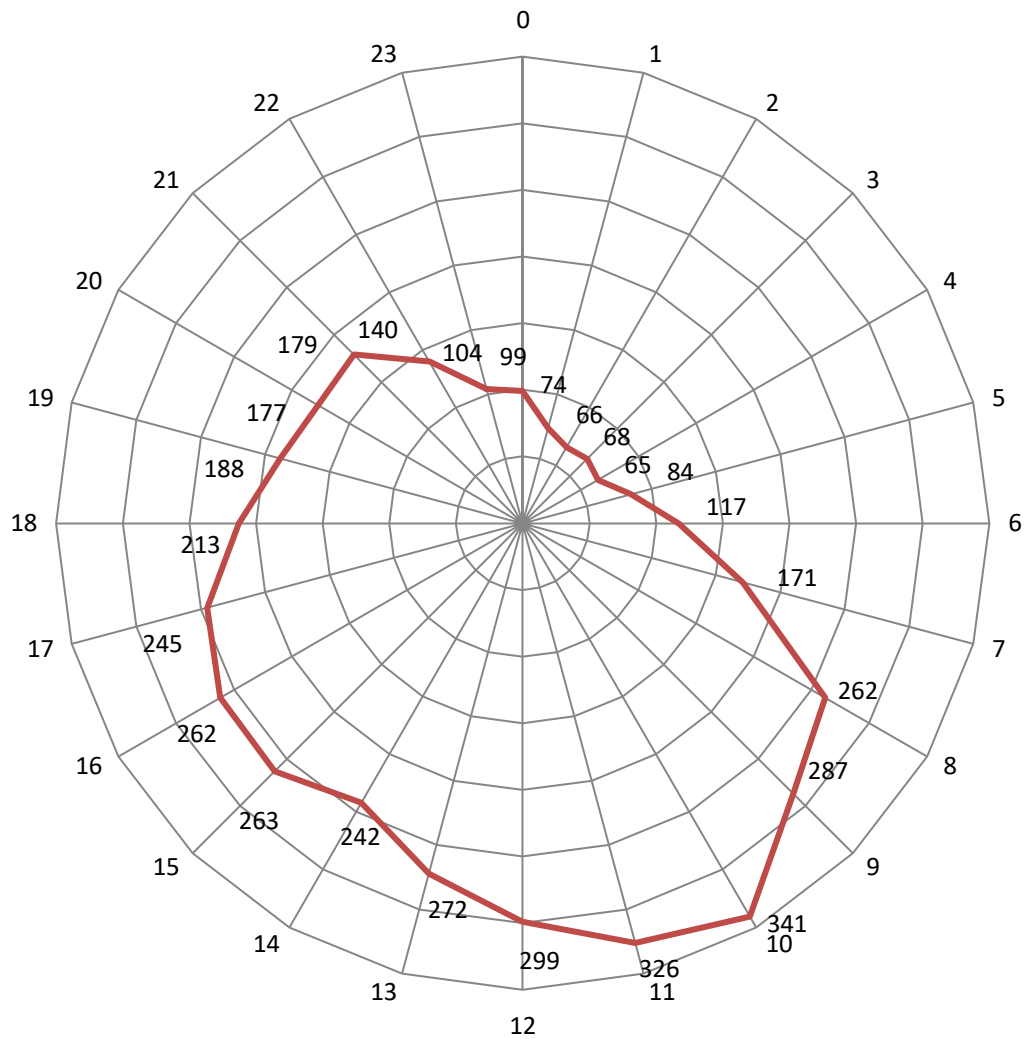


年	曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和6年		670	708	611	626	599	663	667	4,544
令和5年		656	646	597	626	601	651	643	4,420

## 時間別救急出場件数

10時台が最も多く、最も少ないの4時台です。

救急出場件数 4,544件



## 現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

現場到着所要時間の平均は8.6分です。5分以上10分未満で現場到着したものが2,909件で全体の64.0%を占めています。

事故種別	所要時間					計	平均時間 (分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急病	9	152	1,903	764	58	2,886	8.5
一般負傷	3	49	547	220	26	845	8.8
交通事故	3	15	126	93	8	245	9.3
その他	4	99	333	116	16	568	8.5
合計	19	315	2,909	1,193	108	4,544	8.6

## 病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は44.5分で、最も多いのが30分以上60分未満の2,836人で全体の68.6%を占めています。

事故種別 \ 所要時間	10分未満	10分以上20分未満	20分以上30分未満	30分以上60分未満	60分以上120分未満	120分以上	計	平均時間(分)
急病	0	11	429	1,849	303	19	2,611	43.1
交通事故	0	2	10	134	67	2	215	53.7
一般負傷	0	2	75	490	191	9	767	50.1
その他	0	1	125	363	49	2	540	39.5
合計	0	16	639	2,836	610	32	4,133	44.5

## 事故種別救急搬送人員

急病と一般負傷の増加が目立っています。

事故種別 \ 年	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
令和6年	1	0	0	215	80	50	767	16	12	2,611	381	4,133
令和5年	6	0	0	242	82	74	691	13	26	2,533	339	4,006
増減	△5	0	0	△27	△2	△24	76	3	△14	78	42	127

△印は減少

## 傷病程度別救急搬送人員

軽症2,185人(52.9%)、中等症1,763人(42.7%)、重症142人(3.4%)、死亡43人(1.0%)の順となっています。

傷病程度 \ 事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
死亡	0	0	0	2	0	0	2	0	2	36	1	43
重症	0	0	0	15	3	2	8	0	3	97	14	142
中等症	0	0	0	49	26	7	286	4	4	1,026	361	1,763
軽症	1	0	0	149	51	41	471	12	3	1,452	5	2,185
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	215	80	50	767	16	12	2,611	381	4,133

## 発生場所別救急出場件数

住宅内での発生が2,662件で全体の58.6%を占め、そのうち急病によるものが80.5%です。

発生場所 事故種別	住宅	公衆出入 場 所	仕事場	道路	その他	合 計
急 病	2,142	552	53	93	46	2,886
交通事故	2	13	1	221	8	245
一般負傷	490	160	3	130	62	845
そ の 他	28	456	69	8	7	568
合 計	2,662	1,181	126	452	123	4,544

## 事故種別年齢別搬送人員

高齢者（65歳以上）の搬送が2,840人で全体の68.7%を占めています。

事故種別 年齢別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合 計
新生児（28日未満）	1	0	0	0	1
乳幼児（28日～6歳）	110	1	31	2	144
少 年（7歳～17歳）	60	18	31	30	139
成 人（18歳～64歳）	583	130	119	177	1,009
高齢者（65歳以上）	1,857	66	586	331	2,840
合 計	2,611	215	767	540	4,133

## 性別科目別搬送人員

性別では男性が多くなっています。科目別では内科が2,277人で最も多く、続いて整形外科、脳神経外科の順となっています。

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
性 別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	138	65	316	381	392	297	1,213	1,064	91	71	0	4
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		その他		合 計	
性 別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	25		9	2	6	8	33	11	4	3	2,202	1,931

## 高速道路における救急活動状況

高速道別		事故種別				合 計
		急病	交通事故	一般負傷	その他	
中国道	出動件数	3	1			4
	搬送人員	3				3
	不搬送件数		1			1
舞鶴道	出動件数	1		1		2
	搬送人員	1		1		2
	不搬送件数					0
山陽道	出動件数	23	4	4		31
	搬送人員	20	6	4		30
	不搬送件数	3				3
合計	出動件数	27	5	5		37
	搬送人員	24	6	5		35
	不搬送件数	3	1	0		4

## 応急処置件数

応急処置		事故種別				合 計
		急病	交通事故	一般負傷	その他	
応急処置対象人員(人)		2,611	215	767	540	4,133
止	血	12	25	78	18	133
被	覆	8	37	159	42	246
固	定	13	90	89	27	219
保	温	62	16	6	8	92
酸素吸入		495	24	44	119	682
人工呼吸						0
胸骨圧迫						0
心肺蘇生		76	3	6	5	90
在宅療法継続		34		2		36
血圧測定		2,525	212	760	535	4,032
聴診器		442	65	54	55	616
血中酸素飽和度測定		2,551	212	762	535	4,060
心電図測定		1,924	87	304	330	2,645
気道確保		136	5	13	12	166
	経鼻エアウェイ	3				3
	喉頭鏡・鉗子			1	1	2
	* ランゲアルマスク等	49		1	3	53
	* 気管挿管	3	1	4	3	11
	以外	81	5	8	5	99
除細動		11				11
* 静脈路確保		64	6	6	5	81
	* うち心肺機能停止前	9	4	1	3	17
	* うち心肺機能停止後	55	2	5	2	64
* 薬剤投与		31		4	1	36
血糖測定		5				5
* ブドウ糖投与		1				1
その他		2,608	213	765	547	4,133
合計		10,998	995	3,052	2,239	17,284

\*印は、救急救命士の特定行為

## 救助出動状況

出動件数 86 件で前年比 18 件増加し、救助人員についても 38 名で前年比 4 名増加しています。

年別 \ 区分	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動台数 (台)	出動人員 (人)
令和 6 年	86	58	38	230	659
令和 5 年	68	47	34	201	573

## 地区別救助出動件数

三木地区が 24 件と最も多く、次に自由が丘地区の 12 件となっています。最も少ないのは青山地区の 1 件です。

種別 \ 地区		火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合 計
三 木		3	2		1	18		24
三 木 南		2	4			5		11
別 所			3		1	4		8
志 染			4			2		6
細 川			1				2	3
口 吉 川		2	2				1	5
緑 が 丘			1			5	1	7
自由が丘			1			11		12
青 山						1		1
吉 川			5			2	2	9
管 外								0
そ の 他								0
合計	出動件数	7	23	0	2	48	6	86
	活動件数	7	16	0	1	30	4	58
	救助人員	0	16	0	1	16	5	38

## 発生場所別救助出動件数

住居での事故が 51 件で全体の 59.3% を占め、次に道路での事故が 20 件となっています。

種別 \ 場所		火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合 計
屋 内	住 居	3			1	47		51
	その他	4						4
屋 外	高速道							0
	道 路		19				1	20
	池川等		3					3
	その他		1		1	1	5	8
地 下								0
そ の 他								0
合 計		7	23	0	2	48	6	86